

# 琉球病院 Monthly



独立行政法人  
国立病院機構 琉球病院  
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.29  
2015. May

発行者 琉球病院事務部長  
吉永 可公

## 院長

福治康秀(ふくじ やすひで)  
1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。  
1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。  
95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て  
2014年琉球病院院長に就任。  
日本病院・地域精神医学会理事。



## 基本理念

### この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

第40回琉球セミナー『東日本大震災のこころのケアを振り返る  
—地元援助者とともに必要な支援を考える—』を開催して  
琉球病院 主任心理療法士 野村いりか



東日本大震災の発災直後から当院ではNHOのネットワークを活かし、菊池病院や花巻病院と連携し、岩手県宮古市へのこころのケアを継続してきました。平成27年2月13日、東日本大震災から約4年が経過している中、現地でも活動を行ってきた地元の援助者を当院にお招きし、シンポジウムを開催しました。4年間のこころのケア活動を振り返り、被災地が求めるこころのケアの在り方について考え、今後の支援に活かしたいと考えたからです。

はじめに当院の大鶴副院長より企画主旨やこれまでの支援全体の流れについて報告頂き、その後、定期的に支援に携わった池田医師(現:池田病院)より、こころのケアチームの支援について報告がありました。

宮古市保健センターの小野寺保健師と沢田保健師からは、当日の様子や当時の宮古市の保健活動、こころのケアチームとの協働についてご報告頂きました。今回、沖縄に来ることはできなかった保健師さんたちからはビデオメッセージが届きました。

宮古地域こころのケアセンターの野田看護師からは震災後設立されたこころのケアセンターの活動と約4年が経過した現地の様子についてお話頂きました。

田老診療所の船越看護師からは田老地区のこころのケア活動の取り組みについて、山本看護師からはご自身の体験を映像を交えてお話頂きました。田老診療所は他の地域よりいち早く支援者に対する個別面接を導入したり、避難所で個別相談会を開催するなど、こころのケアにも積極的に取り組まれています。

最後は当時第一陣として自ら現地に向向き、支援にあたった村上院長(現:榊原病院院長)の総括でした。村上先生の総括は、現地で直接支援に携わった者も病院で後方支援にあたった者もシンポジウムの参加者全員がその場で体感し、共有したことを現すもので、深い余韻を残してシンポジウムは終わりました。

司会という役割を頂きながら、当時の様々な光景や思いが巡り、時間配分や進行を忘れ聴き入ってしまい、

今回セミナーを振り返るにあたり、客観的に記載することができず、十分にシンポジウムの内容をお伝えできないのが残念です。

現地ではまだまだ復興に向けての取り組みが続いています。今回のシンポジウムは私たちができていることは何かを改めて考える機会となりました。現地へ出向き継続した支援を行うことだけでなく、この繋がりを絶やさず、自分のいるところまでできることは何かを考え、できることを地道に続けていきたいと思えます。



診療科	・一般精神科
	・こども心療科
	・物忘れ外来
	・アルコール依存症等外来
病床数 406床	・精神科病棟 181床
	・認知症 50床
	・アルコール 54床
	・児童思春期
	ユニット 4床
	・重症心身障がい 80床
	・医療観察法 37床

●アクセス  
路線バス/那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス[77番名護東線]浜田バス下車徒歩3分  
自動車/那覇市から40分  
沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

## トピックス

### 行事・出来ごと

- 病棟等建替整備の動き  
進捗状況 本体工事: 請負業者 電気設備 ..... (株)九電工  
機械設備 ..... (株)三建設備工業  
建築(第1期)工事 ..... (株)浅沼組  
建築(第2期)工事 ..... (株)浅沼組

### 教育・研修

- 平成28年度採用看護職員就職説明会 平成27年5月9日(土) 那覇市ぶんかテンプス館
- 「看護の日」イベント～地域住民の皆様へ健康相談～ 平成27年5月28日(木) 10時～14時 金武町「スーパーかねひで」駐車場内  
血圧測定・酸素濃度測定・体脂肪測定・骨密度測定・健康相談他

## 地域医療連携室だより

琉球病院には1名のソーシャルワーカーと9名の精神保健福祉士がおります。精神保健福祉士は地域医療連携室での外来業務の他に各病棟も担当しております。また、琉球病院では統合失調症、アルコール、発達障害、医療観察法の対象者のご家族向けに家族教室も開催しており、窓口は地域医療連携室となっております。関心がある、参加をしたいと考えている方は、地域医療連携室(内線231、234)までご連絡ください。

これから梅雨に入り、体調を崩しやすい季節となりますが、体調管理に気をつけてお過ごしください。ご相談事がありましたらご連絡ください。



空床状況  
4月24日現在

精神科病棟 3床	認知症 2床	アルコール 3床	児童思春期ユニット 2床
-------------	-----------	-------------	-----------------

※ 入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

お問い合わせ時間  
8:30～17:15 (土・日・祝日以外)  
TEL: 098-968-2133 (代)  
内線: 231・234  
FAX: 098-968-7370  
地域医療連携室直通

## 治療抵抗性精神疾患への医療



### クロザピンの治療状況

平成22年1月に1例目のクロザピリン (CLZ) 治療を開始し、全症例は136例になりました。平成27年3月の新規のCLZ導入は3例でした。3例とも他の医療機関に入院されていた患者様であり、うち1例は不穏・粗暴行為などのために長期に渡って隔離をされていた患者様で、今回CLZ導入目的で当院に転院になったものです。3例とも治療開始後の経過は良好です。重度の精神症状を持った患者様がCLZ治療により回復され、その退院数も60例を超えています。週に3回の専門外来も行っていますので、治療抵抗性統合失調症の患者様のご紹介をお願いいたします。

### m-ECT (修正型電気けいれん療法) の治療状況

当院では、県立北部病院麻酔科のご協力の下、m-ECT (修正型電気けいれん療法) による治療を行っております。平成27年3月の治療実績4例であり、各症例とも改善傾向が認められております。

## こども心療科

平成27年7月3日 (金) に静岡県立こども病院の山崎透先生をお招きし、児童思春期に関する研修会を開催致します。不登校に関するテーマでご講演頂きますが、関連して虐待や発達障がいについてもお話し頂く予定になっております。詳細は今後、ホームページやMonthlyでご案内致します。興味関心のある方はぜひご参加下さい。会場の都合上、事前の申し込みが必要です。参加を希望される方はメールもしくはFAXにてお申込み下さい。定員になり次第、締切らせて頂きます。

<研修会案内>

日時：2015年7月3日 (金) 15時～17時 場所：琉球病院研修棟3階 会議室 講師：山崎透先生 (静岡県立こども病院) 定員：50名  
申し込み先：琉球病院 心理療法室 sinri@ryu-ryukyuu.jp 野村

## 認知症医療

<認知症事例検討会について>

今年2月より肥前精神医療センターの橋本学先生と認知症治療病棟横田看護師長の協力のもと、当院と肥前精神医療センター間をネット回線で繋ぎ、テレビ会議室で認知症事例検討会を開催しています。

3月は当病棟に入院中で拒食・拒薬・幻覚・幻聴・被害妄想のある患者様についての検討会を実施しました。

肥前精神医療センターの認知症治療病棟において、事例検討した拒食・拒薬のある患者様に類似した方への対応として、嗜好をご家族からお聞きし好物を差し入れてもらったり、栄養科と相談し栄養補助食品を検討したりと様々な対応をされており、貴重なアドバイスを頂くことができました。

認知症治療・看護において、病院間での情報共有及び意見交換はとても重要なことであり、これからもより良い認知症治療を目指し、事例検討会を実施していきたいと思っております。

## 重症心身障がい児医療

4月号に引き続き、職員・利用者さんとの関わりの中でのお話を。

利用者さんの大半は知的障がいの方が最も重度の方ですが、数名会話が可能の方もいらっしゃいます。会話が可能で、某ビジュアル系ロックバンドが大好きな利用者Mさん。そのロックバンドのCDを療育活動の中で保育士と共に聴いていたMさんでしたが、そこにMさんと比較的年齢の近いK指導員が通りかかります。K指導員はその音楽を耳にするなりMさんに、「その歌手いいですね！」と非常にハイテンションで話し、最終的には2人でカラオケ大会になっていました。2人とも歌詞カードなしで歌っていましたので、よっぽどそのロックバンドが好きだったのでしょう。活動後は、MさんもK指導員も、とても満足している様子でした。

当病棟では様々な療育活動を行っていますが、職員も利用者さんも一緒に楽しめる活動はとても大切だと思えました。今後も皆で楽しめる活動を行い、少しでも明るい雰囲気病棟にしていきたいです。

## アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では3月現在、外来通院の患者様66名、入院中の患者様21名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。当院での実際の効果を判定するための調査を行う予定です。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

## 包括的地域精神医療 (ACT)

当院のラクト (R-ACT) チームの活動を紹介します。当院の地域医療連携室は精神保健福祉士と訪問看護を専従する看護師及び精神保健福祉士が在籍します。通常の訪問看護は、日々割り振られた訪問リストにより、定期訪問を実施します。時には入院中から関わっていた精神保健福祉士が訪問看護と同行訪問をします。ラクトチームは、通常の訪問看護以外に他部門のスタッフ (作業療法士・心理士・医師) を含めた多職種チームが訪問を行います。対象となる利用者は病状が重い、入院院を繰り返している、就労をしたい等の方をスクリーニング票の判断指標を使い契約を行います。訪問目的に合った、スタッフが自宅へ伺い、必要に応じて同伴での作業所の見学や外出を行います。チームは1チームで、全員他の職務と兼務をしておりマンパワーが限られ、思うように活動が行えない現状ですが、意気込みは大きく、目標は高く日々頑張っています。

## 臨床研究部活動状況

「医療観察法病棟対象者の健康への意識向上をめざして -健康についての調査と勉強会を通して-」 湧川 傑

琉球病院医療観察法病棟は開棟8年経過しますが、これまで2名の方が入院中にがんを発症し、いずれも症状が出てからの発見でした。このことから患者様へ健康に対する意識調査を実施した結果、がん検診をうけたことがないと回答した方が71%と大半を占めました。そこで患者様に生活習慣やがんについて健康教育講座を実施し、患者様の健康への意識向上につなげる取り組みを実施しました。講座内容は生活習慣とがん、生活習慣病やメタボリックシンドロームについて講義しました。その結果、受講者の中で「がん検診を受診したい」と希望する方が多くなり、実際に検診を受診し、これを契機に定期通院につながるケースもありました。講座の実施は、健康に対する意識が向上し、受診や予防行動につながったこと、疾病予防や早期発見などの情報や知識、技術を定期的に提供することが患者様の健康に対する意識の向上につながったこと、視聴覚教材や体験を取り入れた講座内容は、患者様の関心が向きやすく意識向上に有効だったこと、などが考察されました。